

# 光栄の森

2021年10月 毎月1日発行 第158号  
発行者 光栄プロテック 中川

## 10月に向けて

代表取締役 三田雅憲

朝夕が少し涼しくなり、いよいよ秋に向かって今日この頃ですが、社員諸君はいかがお過ごしでしょうか？

私事8月に母が他界し、四十九日と納骨を無事に終えることができました。家に帰り、母の思い出話に一族で花が咲いていたのですが、三男がいつも外出する際に母から「行ってらっしゃい。気を付けて帰ってきいや」と毎度毎度言われていたこと、その言葉を自分が結婚して家族を持ち40歳後半の今、同じように家族に話していることに気づき、「ああ深い愛情をかけてくれたんだ、という事を改めて感じた。」とコメントをしていました。家族の繋がりがや絆といった事が、少し希薄な世の中になってはきていますが大切にしたいと思いました。

今月は、松下幸之助（パナソニック創業者）の側で直接薫陶を受け、パナソニックや松下政経塾で活躍した上甲晃さんの言葉から職業人としての教えを学びたく思います。

上甲氏『20代に限らず私が人生で最も影響を受けたのは、松下幸之助に他ならない。学校で様々な専門の知識を勉強したが、本当の生き方を教えられたのは会社に入ってからであり、もっと言えば松下幸之助と出会ってからである。

とりわけ心に深く刻まれているのは研修時での訓話だ。「君らな、僕が今から言う2つのことを守り通したら松下電器の重役になれる。」というような前置きをした上でこう言った。「一つは、良い会社に入ったと思われ続けられるかどうかや」誰でも入社したばかりの時は良い会社に入ったと思う。しかし、嫌な上司がいたり、意に沿わない仕事をされられたり、様々な不遇にあう。それでもなお、良い会社を選んだと心から思えるかどうかはすごく大事なことだと。「人間9割は自分ではどうにもならない運命のもとに生きている。その運命を呪ってはいけない。喜んで受け入れる、すると運は良くなる。」とも教えられた。世の中に数百万社とある中で、この会社に入ったというのは縁や運としか言いようがない。その自分の運命を呪わず、前向きに喜んで受け止めていくと人生は好転する。これは会社のみならずあらゆる境遇に当てはまると学んだ。

「もう一つは、社会人になってお金が一番大事と思ったらあかんぞ。もちろんお金も大事やけどな、お金は失くしても取り戻せるんや。しかし、人生にはこれを失うと取り戻すのも大変苦勞するものがある。それは信用や。信用を大事にせなあかん。」この2つの言葉に強烈な衝撃を受けた同時に私の社会人生活の基本、考え方の根っこになった。』

とあります。松下と光栄を比べてどうだと言っているのではなく、まず私や社員諸君がご縁を大切に人間かどうか、そしてその縁を大切に自分の信用を第一と考えているかがこれから社会人、職業人として非常に大切になることを述べておられます。自分の運命に対して感謝し、現状を肯定し、前向きに考えていくことも言うのは簡単ですが難しいことでもあります。それをあえて、良かったと思うところに人生を開き成功に導いてきた松下幸之助さんの言う心理がある気がします。

いよいよオリンピックも終わり、10月より本格的に仕事が忙しくなってきます。お客様に喜んでもらえる仕事を増やし、納期を守り、材料のムダや時間のムダを減らせば必ず生産性が向上することが期待ができます。千葉白井第二工場も12日より稼働します。社員諸君の下半期の頑張りをお願いします。